

まちづくりを進めるための基盤

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤		
2	施策	7-1	まちの魅力を市内外に発信する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	シティブロモーション基本方針に基づき、市民・団体(NPO、地域団体など)、企業や大学、行政が協働して具体的な取組を進めるほか、対象者に応じた様々な広報媒体を活用して本市の魅力を市内外に積極的に発信します。また、魅力の発掘や資源間の連携による新たな魅力の創造にも努めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	企画財政部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	企画財政部	まち魅力発信課	—
6	施策内の取組	7-1-1	戦略的なシティブロモーションの構築と展開		
		7-1-2	魅力発信力の強化		
		7-1-3	魅力の発掘と創造		

### 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
		評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R4年度末現在の施策の主な課題		
		<p>平成27年度に「茨木市シティブロモーション基本方針」を策定し、3つの基本方向(まちのイメージ形成、まち魅力の発掘・創造、情報発信の強化)に沿って効果的・戦略的に取り組んできました。                  「戦略的なシティブロモーションの構築と展開」については、ブランドメッセージの活用件数が前年度から増加の18件と着実に浸透し、様々な事業者・団体に継続的に活用していただくことができました。                  「魅力発信力の強化」については、市民投稿による「茨木の魅力」を募集し、その結果を広報誌特集やホームページ、市民レポーターによる発信に展開するなど、官民間の連携・媒体間の特性を生かした相乗的な情報発信を行うことができました。加えて、地域メディアへの情報発信等にも努め、新聞等メディアの情報掲載率は前年度から約4割上昇の104%に達したほか、市SNSの総登録者数は前年度から約1.5割増加の20,923件となりました。また、ふるさと寄附金事業では、寄附件数は7,395件と前年度比約1割増加したことで、より多くの皆さまに本市の地場産品やまちの魅力をPRすることができました。                  「魅力の発掘・創造」については、本市の主要事業である「おにクル」、「ダムパークいばきた」を新たなまちの魅力として「ワクワクが、ぞくぞく。」のコピーで一体的に訴求し、市内公共施設や交通機関など市内約180か所でのポスター掲出や広報誌特集、魅力発見ツアーなど様々な取組を通じて、「次なる茨木のまちづくり」の推進を多くの皆さまに周知することができました。特に、ロケーション撮影の誘致に成功した正月バラエティ特番では、多くの方に対し「ダムパークいばきた」の事業周知と期待感の醸成を図ることができました。                  以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移していると判断し、総合評価は「A」とします。</p>	課題①	これまでのシティブロモーションに係る取組や次期総合計画の策定時期等を考慮し、基本方針の内容や今後の方向性を整理する必要があります。	
			課題②	本市の魅力PRと地域の活性化を図るため、ふるさと寄附金ポータルサイトの充実、手続きの更なるオンライン化等を進める必要があります。	
			課題③	共感・応援・賛同を集める手法の一つとして、クラウドファンディングの活用に係る基準や運用方法を整理する必要があります。	
			課題④	時代の変化を踏まえ、紙媒体とWEB媒体の役割整理、連携強化を含めた「今求められる広報誌」のあり方を検討する必要があります。	
			課題⑤	「ワクワクが、ぞくぞく。」のキャッチコピーのもと、おにクル、ダムパークいばきた関連施策を中心としたプロモーションにより、「次なる茨木のまちづくり」への市民の皆さまの理解促進と期待感の醸成を図る必要があります。	

1		7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-1	まちの魅力を市内外に発信する

3 施策内の取組の評価

1	取組	7-1-1	戦略的なシティプロモーションの構築と展開				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	まち魅力発信課	課長名 大野 雅史	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民・事業者とともに基本方針を共有し、その実現に向けて取り組んでいます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ブランドメッセージの活用件数は前年度から増加の18件となり、イベントチラシや新商品での使用が増えるなど、多くの皆さまに活用いただくことができました。また、ロケ支援事業としては、民放バラエティ番組や企業CMの撮影支援を行い、茨木のまちの露出が増加したことで市民の皆さまのまちへの愛着を高めることができました。引き続き、基本方針を体現するブランドメッセージを合言葉に、市民・事業者の皆さまの協力のもとシティプロモーションのさらなる推進に努めます。 以上より、本取組は順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	ブランドメッセージの活用件数	件	→	11	18	11 (R4)	
	本市でロケーション撮影が行われた番組等の支援回数(7-1-3で再掲)	回	→	11	19	11 (R4)	

1	取組	7-1-2	魅力発信力の強化				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	まち魅力発信課	課長名 大野 雅史	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	本市に興味を持ち調べる人、魅力を感じて関わる人や活動する人、転入してくる人や訪れる人、企業や事業所が増えていきます。また、市内で開催されるイベントの参加者が増えていきます。まちに誇りと愛着を感じる市民が増えていきます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ふるさと寄附金については、おにクル関連のクラウドファンディングを実施したほか、寄附件数が前年度比10%以上増加するなど、本市の魅力を多くの方にお届けすることができました。また、各種媒体の特性を活かした発信を行い、市公式SNSの総登録者数は前年度比約15%増加したほか、報道機関への情報提供においては、地域メディアへの情報発信等にも努め、掲載率の向上を図ることができました。そのほか、Instagram等により市民の皆さまから募集した「茨木の魅力」を広報誌特集等に展開するなど、媒体間の連携、市民の皆さまとの連携による発信を推進しました。 以上より、本取組は順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	ふるさと寄附金の寄附件数	件	↗	6,658	7,395	7,000 (R4)	
	新聞等マスメディアの情報掲載率(掲載数/資料提供件数)	%	→	76	104	75 (R4)	
	市公式SNSの総登録者数(3-4-2の再掲)	件	↗	18,077	20,923	20,500 (R4)	

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-1	まちの魅力を市内外に発信する

1	取組	7-1-3	魅力の発掘と創造				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	まち魅力発信課	課長名 大野 雅史	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	新しいイベントや観光など、本市の新しい魅力が生まれ、広がっています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	民放バラエティ番組や企業CMのロケーション撮影を積極的に支援し、身近なまちの魅力にスポットをあてることができました。また、各種団体の会議・交流会にも積極的に参加し、繋がりや連携を強化することができました。 加えて、市民会館跡地エリアの新施設「おにクル」や「ダムパークいばきた」などの新たなまちの魅力について、広報誌特集や魅力発見ツアー、市内外施設や公共交通機関へのポスター掲示等を行うなど、「次なる茨木のまちづくり」の推進を多くの皆さまに広く周知することができました。 以上より、本取組は順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	本市でロケーション撮影が行われた番組等の支援回数(7-1-1の再掲)	回	→	11	19	11(R4)	
	各種団体との連携数(学校園、地域団体、出前授業)	回	→	4	8	4(R4)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果が順調に出ており、指標をみても昨年度より伸びている。よって、総合指標「A」は妥当と考える。</li> <li>・「おにクル」や安威川ダムの完成にともなう「ダムパークいばきた」など、新たな魅力が生まれることをうまくプロモーションにつなげているが、これらの成果が今後とも継続するように頑張ってもらいたい。</li> <li>・「おにクル」の取り組みでさまざまなクラウドファンディングを立ち上げたが、市民はクラウドファンディング疲れを起こしており、やり方の工夫やPR方法を再検討する必要があるのではないか。</li> </ul>

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	施策評価を含めた新たな行財政マネジメントシステムの確立や公共施設等の適正管理、市有資産の有効活用により、限られた経営資源を効率的にいかし、健全で安定した行財政運営を行います。また、情報通信技術などの新しい技術の活用により、場所や時間にとらわれない使いやすい行政サービスの提供を段階的に進めていきます。さらに、SDGsの趣旨を踏まえつつ、広い視野で、分野横断的に取組を進めるとともに、各主体とSDGsの目標を共有し、持続可能な自治体運営を進めていきます。	
5	評価者等	部 名	補職名・課名
		評価者(部長級)	企画財政部 部 長 上田 雄彦
		施策主担当課	企画財政部 政策企画課 -
		施策関係課	総務課、収納課、財政課、財産活用課、市民会館跡地活用推進課、DX推進チーム、情報システム課、環境事業課、下水道総務課
6	施策内の取組	7-2-1	計画的な政策の推進
		7-2-2	行財政改革の推進
		7-2-3	健全な財政運営
		7-2-4	公共施設等の計画的な保全・更新と資産の有効活用
		7-2-5	組織機構の整備
		7-2-6	使いやすい行政サービスの提供
		7-2-7	電子自治体の推進

### 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題
	行政マネジメントシステムの確立については、実施計画策定にあたり、施策評価の課題や社会情勢への対応といった立案根拠を明確化し、効果的な事業立案を推進しました。また、令和5年秋のおにクル開館を機に「ともに創る茨木」を推進するための機構改正を行いました。 また、臨時で発生した給付金業務実施のため、横断的組織であるクロスファンクショナルチームを立ち上げるなど、昨年度に引き続き柔軟な対応を行うことができました。 公共施設等の適正管理については、公共建築物の個別施設計画の年度改定を行い、計画的な公共施設の適正配置や保全に努めるとともに、施設予約システムとの連携による一部施設でのクレジット決済の運用開始や、民間提案制度における趣旨採用案件の事業化、ネーミングライツパートナーの募集など財源確保にも取り組みました。 さらに、厳しい財政状況が続くなか、より一層の「メリハリあるビルド&スクラップ」の実践に努め、行政の使命である市民サービスの充実や健全財政の確保を図りました。 情報通信技術などの新しい技術の活用については、電子申請システムにデジタルID認証などの機能を導入し、特に優先して取り組むべき子育て・介護関係に対応するとともに、一部手続においてキャッシュレス決済をモデル導入し、行かなくてもいい市役所の実現に近づくとともに市民の利便性向上につなげました。 以上のことから順調に進行していると判断し、総合評価は「A」評価としています。		課題① 業務全体の効率化が図れるBPR手法の検討が必要です。
			課題② 「次なる茨木の実現」に向けた「メリハリあるビルド&スクラップ」の実践に努めるため、行財政改革指針をふまえたさらなる事務事業の見直し等に努める必要があります。
			課題③ 市有財産活用方針に基づき、未利用・低利用財産の現状を把握のうえサウンディング型市場調査等による民間事業者のアイデア等を活用しながら、全庁的な市有財産の有効活用に向けた取組を推進する必要があります。
			課題④ マイナポイント第2弾の影響により急増したマイナンバーカード申請件数に対応するため、交付体制を整える必要があります。
			課題⑤ 利便性向上を図るため、書かない窓口、プッシュ型サービスの検討、また、窓口におけるキャッシュレス決済のさらなる拡充を行う必要があります。

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-2-1	計画的な政策の推進				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	政策企画課	課長名 岩崎 友昭	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	行政評価を活用した行財政マネジメントシステムが確立され、PDCAサイクルが有効に機能しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	DXの取組を推進したほか、「茨木市SDGs推進ガイドライン」を策定し、SDGsの理念を取り入れた施策の立案・展開を強化するなど、社会情勢を踏まえた取組を進めました。また、実施計画策定にあたっては、施策評価の課題や社会情勢への対応といった立案根拠を明確化することで効果的な事業立案を推進するとともに、施策評価において各審議会の委員による評価を継続するなどの確かな評価に努めました。 以上の取組より概ね順調に推移していますが、指標としている実施計画における事業立案件数が減少しており、さらなる立案の仕掛けづくりが必要であることから、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
総合計画実施計画における新規・拡充・縮小・廃止等の事業立案件数	件	↗	287	268	290 (R7)		
取組評価における評価が「a」の施策数	件	↗	30	36	40 (R7)		

1	取組	7-2-2	行財政改革の推進				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	政策企画課	課長名 岩崎 友昭	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	効率的、効果的な行政サービスの提供が実現しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	常日頃からの職員の事業に対する見直しの意識を向上させるため、事務事業実績報告において全事業で見直し内容の報告を行うなど、効率的で効果的な行財政運営の実現に向けた取組を推進しました。 また、BPRについて、モデル課で業務の一部分の効率化、見直しを行うなど、業務改善に向けた取組を進めました。 以上のように、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、BPRの効果的な手法や全庁的な展開方法を検討し、業務全体の効率化、見直しなどの抜本的な業務改善につなげる必要があるため「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
行財政改革指針に沿って実施した経費節減・歳入確保の効果額(土地売却益を除く)	百万円	↗	181	153	200 (R4)		
事業の見直しを行った割合	%	↗	29	23	40 (R4)		

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する

1	取組	7-2-3	健全な財政運営				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	財政課	課長名 足立 友司	
3	関係課	総務課、収納課、環境事業課、下水道総務課					
4	目標 (後期基本計画より)	厳しい財政環境にあっても市民サービスの充実が図られる、行財政運営の取組が実践されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	令和4年度は評価指標に係る目標値を達成し、健全財政を堅持しながら、行政の使命である市民サービスの充実を図ることができました。なお、中長期の財政収支見直しにおいては、一定の市税等の増収を見込むものの、高齢化の進展等に伴う社会福祉経費が増加することに加え、経常化する経費の累積等から、今後も厳しい財政状況が続くと想定されることから、より一層の「メリハリあるビルド&スクラップ」の実践に努めてまいります。 以上のように施策の方向性に沿って順調に推移していることから「a」評価といたします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		経費硬直率	%	↘	85	84	概ね85%以内
市債償還指数	(なし)	↘	6	5	概ね7.5以内		
公債費	円	↘	52億	52億	概ね60億円以下		

1	取組	7-2-4	公共施設等の計画的な保全・更新と資産の有効活用				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	財産活用課	課長名 梶 日出男	
3	関係課	総務課、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (後期基本計画より)	それぞれの公共施設等に合わせた改修、適正配置等が進み、安全性の確保と市民の利便性の向上が図られています。 市有の土地・建物の貸付や売却、資産への広告掲載など、市有資産の有効活用が図られています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	公共施設等の適正管理に向けて、公共建築物の個別施設計画である全体最適化に係る「最適化実行計画」や保全に係る「中長期保全計画」の年度改定を行い、計画的な公共施設の適正配置や保全に努めました。また、施設予約システムとの連携による一部施設でのクレジット決済の運用開始や、民間提案制度における趣旨採用案件の事業化に取り組んだほか、未利用財産の貸付や新規広告事業等の実施、おにクルの大ホール等のネーミングライツパートナーの募集など財源確保に向けた取組を行いました。以上のことから、目標の実現に向けた事業を推進し順調に進行しているとして「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		市有財産の貸付による歳入額(財産活用課所管分)	千円	↗	34,883	34,873	34,692(各年度)
広告事業による効果額(歳入及び経費削減)	千円	↗	10,703	12,204	11,000(R6)		

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する

1	取組	7-2-5	組織機構の整備				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	政策企画課	課長名 岩崎 友昭	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	複雑多様化する行政課題に的確に対応でき、相互に連携し横断的に機能する組織機構となっています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	令和5年秋のおにクル開館を機に「ともに創る茨木」を推進するとともに、同様の事務を担っている部署において柔軟な連携によるきめ細かな対応を図るため、機構改正を行いました。また、物価高騰対応給付金などの臨時で発生した業務を、横断的組織であるクロスファンクショナルチームで対応するなど、昨年度に引き続き柔軟な対応を行うことができました。以上のことから、順調に進行していると判断し「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	機構等改正検討件数	件	→	38	41	—	

1	取組	7-2-6	使いやすい行政サービスの提供				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	市民課	課長名 玉谷 圭太	
3	関係課	政策企画課、DX推進チーム、情報システム課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民は窓口に行く回数が減り、待ち時間は短縮されています。また、一人ひとりに必要な行政サービスはより正確に提供されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	行政手続のオンライン化について、電子申請システムにデジタルID認証などの機能を導入したことで、対応が可能な手続が増加したとともに、特に優先して取り組むべき子育て・介護関係については令和4年度内に対応しました。また、ネットワークシステムで他機関と連携し、添付書類省略などの効率化を図るとともに、一部手続においてキャッシュレス決済をモデル導入しました。以上のことから、マイナンバーカードの普及をより一層促進するなど引き続き取組を強化していきますが、行かなくてもいい市役所の実現に向け、順調に市民サービスの提供を進められていると評価し「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	マイナンバーカード交付率	%	↗	46	66	100(R4)	
	行政手続のオンライン化状況	%	↗	10.2	57.5	66.1(R4)	



1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する

1	取組	7-2-7	電子自治体の推進				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	DX推進チーム	課長名 牧原 博孝	
3	関係課	情報システム課					
4	目標 (後期基本計画より)	情報システム全体の最適化により、より簡素で効率的・効果的な自治体運営が推進されています。ICTの活用により、利便性が実感できる電子行政サービスの提供や職員の働き方改革など、電子自治体が段階的に構築されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ICTの活用については、RPAやAI-OCRなどにより、行政内部事務の自動化を推進するとともに、AIを活用したFAQチャットボットを導入し、24時間対応の問合せ手段を提供することにより利便性の向上を図りました。情報システム全体の最適化については、ホストシステムを全廃し、オープン化を完了しました。システムの標準化については、ロードマップに沿って、各システムの移行に必要な情報収集や標準仕様と現行システムの比較分析等を行い、令和7年度移行完了に向け、順調に進行しました。以上のように施策の方向性に沿って順調に推移しているため、「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	総合アプリ「いばライフ」ダウンロード数	件	↗	25,381	31,585	35,000 (R5)	
	RPAにより自動化した累積業務数	件	↗	41	60	70 (R5)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果が順調に出ており、指標をみてもほとんどの指標で昨年度より伸びている。よって、総合指標「A」は妥当と考える。</li> <li>・とくにICT活用で成果が顕著に出ていると評価できる。</li> <li>・生成AIの登場によって急速に業務内容が変化していくと思うが、それに対応した適切で大胆なBPRが必要だと思う。</li> <li>・公有地は安易に民間に売却するのではなく、公益性の観点から有効利用を進めて欲しい。</li> </ul>

**施策評価シート**

**1 施策の概要**

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤		
2	施策	7-3	地域社会の発展に貢献できる職員を育成する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	市職員が全体の奉仕者として、高い倫理観と基礎自治体における行政の担い手としての強い使命感を持つとともに、地域の実情に柔軟できめ細やかに対応し、市民とともに課題解決を図る意識や能力の高い職員の育成に努めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	総務部	部 長	中村 康弘
		施策主担当課	総務部	人事課	—
	施策関係課				
6	施策内の取組	7-3-1	職員の能力開発		
		7-3-2	人材育成に主眼をおいた人事制度の確立		

**2 令和4年度末現在の施策の現状と課題**

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R4年度末現在の施策の主な課題			
		課題①	職員の人材育成及び組織力強化のため、管理職のマネジメント力を向上させる必要があります。		
		課題②	新型コロナウイルス感染症に配慮し、可能な限りリモートによる研修やeラーニング形式の研修を充実させる必要があります。		
		課題③	人事制度の見直しにおいて、すでに制度化した内容のほか、人事評価制度の見直しについて検討する必要があります。		
		課題④	働き方改革の一環として、時間外勤務の縮減や年休取得の推進について引き続き全庁的に取り組む必要があります。		
		課題⑤	簡素で効率的な行政体制を実現するため、職の精査を通じて適正な人員配置を行う必要があります。		
職員の能力開発については、人材育成基本方針に基づき、職務を通じた人材育成であるOJTと職場から離れた研修による人材育成であるOff-JTの両面から取組を進め、茨木市OJTマニュアルに基づいて傾聴・承認等のコミュニケーションスキルの重要性を周知するとともに、各職場で効果的な人材育成を促進するため、管理職へコーチング実践研修を行いました。 また、新規採用職員指導育成制度に則り、各職場での丁寧な助言・指導が実現できるよう、進捗管理等のフォローをしました。さらに、感染拡大防止の観点から、eラーニング化を一層推進し、安全で効果的に研修を受ける機会を増加させました。 人材育成に主眼を置いた人事制度の確立については、人事給与制度全般の見直しを検討するために設置された庁内プロジェクトチームから、主に働き方改革、人事評価制度や管理職制度の見直し、複線型人事制度の創設に関する提言を受け、順次制度化を進めています。令和4年度は、給与制度全般の見直しを実施するとともに、管理職制度の見直し、複線型人事制度の創設を行いました。 以上のように概ね順調に推移していますが、感染症の影響による職場主催研修の実施回数の減少や、人事評価制度の見直し等の課題があるため「B」評価とします。					

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-3	地域社会の発展に貢献できる職員を育成する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-3-1	職員の能力開発				
2	主担当課	部名	総務部	課名	人事課	課長名 東 利之	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	職員が地域の実情に柔軟できめ細やかに対応できる意識と能力を備えています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	人材育成基本方針に基づき、OJTとOff-JTの両面から取組を進め、茨木市OJTマニュアルに基づいて傾聴・承認等のコミュニケーションスキルの重要性を周知するとともに、各職場で効果的な人材育成を促進するため、管理職へコーチング実践研修を行いました。また、新規採用職員指導育成制度に則り、各職場で円滑に丁寧な助言・指導が進むよう、進捗管理等のフォローをしました。さらに、感染拡大防止の観点から、eラーニング化を一層推進し、安全で効果的に研修を受ける機会を増加させました。以上のように概ね順調に推移していますが、感染症の影響を受けて職場主催研修の実施回数が減少しているため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
選択参加型研修における受講後職務活用度	%	↗	83	83	80(R4)		
職場主催研修実施回数	回	↗	93	66	120(R4)		

1	取組	7-3-2	人材育成に主眼をおいた人事制度の確立				
2	主担当課	部名	総務部	課名	人事課	課長名 東 利之	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	職員が常に意欲を持って、自律的に職務に取り組むための人事制度が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	人事給与制度全般の見直しを検討するために設置された庁内プロジェクトチームから、主に働き方改革、人事評価制度や管理職制度の見直し、複線型人事制度の創設に関する提言を受け、順次制度化を進めています。令和4年度は、給与制度全般の見直しを実施するとともに、管理職制度の見直し、複線型人事制度の創設を行いました。以上のことから、人事評価制度の見直し等の課題はあるものの、順調に推移しているため、「a」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
技術系職員採用試験受験者倍率	倍	↗	8	6	10(R4)		
1人あたり月平均時間外勤務時間数	時間	↘	16	16	16.49(R4)		
1人あたり年休取得日数	日	↗	12	13	12(R4)		


### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部評価シートに記載されているようにさまざまな成果が出ているが、人材育成についていくつかの課題が残されているため、総合指標「B」は妥当と考える。</li> <li>・人材育成の成果を測るのは難しい側面もあるが、内部評価シートに記載されている成果はアウトプット指標が多く、研修や制度の見直しがどのように人材育成につながっているのか、アウトカムとしての評価が今後は欲しい。とくに、管理職制度の見直しや複線型人事制度がどのような具体的成果につながっているのかを明確にすることで、これらの改革の有効性をアピールすることができる。</li> <li>・技術系職員採用試験受験者を集めるのは他市も苦戦しているが、公務員としての仕事の魅力をPRするなどの工夫が必要である。また、先進的な自治体を実施している中途採用者の増加によって、職員の多様性を高めることも検討されたい。</li> </ul>				

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤		
2	施策	7-4	人権尊重のまちづくりを推進するとともに平和の実現をめざす		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	核兵器の恐ろしさや平和の尊さの認識を深めるとともに、核兵器の廃絶に向けた取組を進めます。市民一人ひとりの人権が尊重・擁護された差別のないまちづくりの実現に向けて、すべての施策を人権尊重の視点に立って推進します。市が保有する個人情報を適切に保護するとともに、個人情報保護に必要な施策を推進します。			
5	評価者等		<b>部 名</b>	<b>補職名・課名</b>	<b>氏 名</b>
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	人権・男女共生課	—
	施策関係課	法務コンプライアンス課			
6	施策内の取組	7-4-1	生命の尊さを守る非核平和社会の実現		
		7-4-2	一人ひとりの人権を尊重するまちづくりの推進		
		7-4-3	個人情報保護への対応		

### 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
2	生命の尊さを守る非核平和社会の実現への取組として、子どもや若い世代に戦争の悲惨さや命の尊さを感じてもらえるよう、夏休み期間中に非核平和展を開催しました。コロナ禍の影響で規模は縮小したものの、本市の戦争被害や、高校生が被爆者から聞き取り描いた絵画等のパネル展示、子ども向けの映画上映等のほか、ウクライナ避難民の写真展と講演会を実施した結果、入場者数が増加しアンケートでも一定の評価を得ました。 一人ひとりの人権を尊重するまちづくりの推進につきましては、第2次人権施策推進計画の改定を行い、審議会の意見等を踏まえて事業の改善を図りました。また、インターネット上の人権侵害の調査及び削除依頼により一部の動画が削除されました。さらに関係機関と連携し、オンライン等を活用した講演会や巡回展示会などを開催し、人権意識の高揚に寄与しました。 また、いのち・愛・ゆめセンターでは、適切な相談対応により、住民の安心感を得るとともに、教員や学生との多文化共生支援の手法等の検討により事業改善への助言を得ました。 個人情報保護への対応につきましては、個人情報取扱事務目録台帳及び個人情報取扱業務Webシステムの適正な管理並びに自己情報開示制度の適正な運用に取り組むとともに在職2年目職員研修において、個人情報取扱事務や自己情報開示請求制度についての説明を行いました。また、個人情報保護制度に係る説明会を実施し、法改正に伴う個人情報保護事務に係る留意事項等について全庁的に制度の周知を行い、職員の個人情報保護に対する意識向上に努めました。 これらのことから施策の方向性に沿って概ね順調に進行しておりますが、非核平和の取組の充実、インターネット上の人権侵害や新型コロナウイルス感染症に関連する差別等新たな人権課題への取組や、いのち・愛・ゆめセンターの相談機能の強化や外国人住民の活躍の場の提供などをより一層推進する必要があるため、総合評価は「B」とします。		課題①	戦争の記憶を風化させず、非核平和の尊さを若い世代に引き継いでいくため、より効果的な内容や方法を検討し実施する必要があります。また現在起こっている世界の紛争等への関心を高めることも必要です。	
			課題②	新たな人権課題が発生している中で、人権に関する取組が効果的に浸透するよう職員に意識付けと取組促進を図る必要があります。また、確立したオンラインでの研修形態について効果等を検証し見直す必要があります。	
			課題③	地域社会での外国人住民の孤立といった課題に対応できるよう、外国人住民に対して情報提供や相談体制を強化するとともに、より地域に愛着を感じよりよい生活を送れるよう地域で活躍できる場を提供する必要があります。	
			課題④	令和4年度に中間見直しを行った第2次人権施策推進計画に基づき、市民の人権意識や社会の人権課題の状況に合わせた事業の推進を図る必要があります。	
			課題⑤	個人情報のより一層の適切な管理を実践するため、関係課と連携し、職員の個人情報に対する知識を深める必要があります。	

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-4	人権尊重のまちづくりを推進するとともに平和の実現をめざす

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-4-1	生命の尊さを守る非核平和社会の実現				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	人権・男女共生課	課長名	松山 浩一郎
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	核兵器の廃絶と平和の実現に向けた、市民意識が醸成されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	子どもや若い世代に戦争の悲惨さや命の尊さを感じてもらえるよう、夏休み期間中に非核平和展を開催しました。コロナ禍の影響で規模は縮小したものの、本市の戦争被害や、高校生が被爆者から聞き取り描いた絵画等のパネル展示、子ども向けの映画上映等のほか、ウクライナ避難民の写真展と講演会を実施した結果、入場者数が増加し、アンケートでも一定の評価を得ました。一方で、例年実施しているJR茨木・阪急茨木市両駅前での街頭キャンペーンについてはコロナ禍の影響で中止としました。以上のように概ね順調に推移していますが、非核平和展のさらなる来場者の増や、市民意識の醸成、満足度の向上に向けて、より一層内容の充実を図り、さらに工夫する必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
非核平和展の来場者数	人	↗	945	1,011	2500(R4)		
非核平和展入場者アンケートによる満足度 (大変満足+概ね満足/アンケート総数)	%	↗	96	89	90(R4)		

1	取組	7-4-2	一人ひとりの人権を尊重するまちづくりの推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	人権・男女共生課	課長名	松山 浩一郎
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	あらゆる分野で人権尊重の視点に立ったまちづくりが進められています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	第2次人権施策推進計画の改定を行い、審議会の意見等を踏まえて事業の改善を図りました。また、インターネット上の人権侵害の調査及び削除依頼により一部の動画が削除されました。さらに関係機関と連携し、オンライン等を活用した講演会や巡回展示会などを開催し、人権意識の高揚に寄与しました。いのち・愛・ゆめセンターでは、適切な相談対応により、住民の安心感を得るとともに、教員や学生との多文化共生支援の手法等の検討により事業改善への助言を得ました。以上のようにセンター利用者数の増など一定の成果があり、概ね順調に進行していますが、新たな人権課題への対応や相談機能の強化及び外国人住民の活躍の場の提供などの課題があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
いのち・愛・ゆめセンターの総利用者数(延べ人数)	人	↗	63,988	90,423	58,000(R4)		
いのち・愛・ゆめセンターにおける相談件数	件	↗	1,905	1,659	2,000(R4)		

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-4	人権尊重のまちづくりを推進するとともに平和の実現をめざす

1	取組	7-4-3	個人情報保護への対応				
2	主担当課	部名	総務部	課名	法務コンプライアンス課	課長名	樋之津 奈穂
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	「個人情報保護条例」に基づき、本市が保有する個人情報について、適正に管理されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	令和4年度は、在職2年目職員研修において、個人情報取扱事務や自己情報開示請求制度についての説明を行いました。また、個人情報保護制度に係る説明会を実施し、法改正に伴う個人情報の取扱いの変更点、個人情報保護事務に係る留意事項等について全庁的に制度の周知を行い、職員の個人情報保護に対する意識向上に努めました。また、前年度に引き続き、個人情報取扱事務目録台帳及び個人情報取扱業務Webシステムを整備・管理するとともに、個人情報取扱事務及び自己情報開示制度の適正な運用に取り組みました。以上のように施策の方向性に沿って順調に推移しているため、「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	個人情報保護に関する研修の開催、通知等の回数	回	→	2	2	-	



#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の方向性」に立って、人権尊重のまちづくりと平和をめざす取組が適切に実施されていることが「施策の現状と課題」からうかがわれ、総合評価「B」は妥当である。</li> <li>・非核平和展の開催では、本市に直接関わる戦争被害の姿を示し、高校生の平和への願いを込めた絵画パネル展やウクライナ避難民の写真展など、視覚をとおして感性に訴える啓発事業が実施されており、高く評価したい。</li> <li>・改定された「人権施策推進施策」をふまえ、新たな人権課題とされるインターネット上の人権侵害などに対する取組や関係機関と連携した講演会や巡回展示会の開催などの地道な人権啓発活動を評価する。</li> <li>・いのち・愛・夢センターでの人権相談の実施など、人権保障につながる各種の事業があり、加えて多文化共生に関わる支援の手法等を教員や学生による工夫を検討するなどの積極的な事業展開の今後に期待する。</li> <li>・個人情報の保護への対応については、記載されているような研究や取組は高い評価に値する。</li> </ul>

**施策評価シート**

**1 施策の概要**

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤		
2	施策	7-5	市民とともに男女共同参画社会の実現をめざす		
3	対応するSDGs	 			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	「男女共同参画社会基本法」に基づき、男女が互いの人権を尊重しつつ、性別にかかわらず、いきいきと暮らすことのできる男女共同参画社会の実現をめざします。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	人権・男女共生課	—
6	施策内の取組	7-5-1	市民と協働した男女共同参画の推進		
		7-5-2	DVの予防啓発及び被害者の支援		

**2 令和4年度末現在の施策の現状と課題**

1	総合評価	<b>B</b>	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R4年度末現在の施策の主な課題			
		課題①	第3次計画の重点施策や目標値を踏まえ、具体的な取組を検討・実施する必要があります。		
		課題②	性の多様性の尊重に向けて、引き続き、市民や事業者の理解促進と性的マイノリティの方の支援に取り組む必要があります。		
		課題③	課題が多様化しているため、関係機関や関係課と連携し、臨機応変に対応する必要があります。		
		課題④			
		課題⑤			
市民と協働した男女共同参画の推進につきましては、市民意識調査結果等を踏まえ、第3次茨木市男女共同参画計画を策定しました。LGBTQ当事者への支援としては、性の多様性を尊重するまちづくり宣言を行うとともに、パートナーシップ宣誓制度及び補助制度を開始しました。また、啓発冊子の配布や研修の実施により事業所への理解促進を図りました。ローズWAMにおいては、オンラインで同時開催とするなど、新型コロナ感染拡大防止に留意しながら各種事業を実施しました。 DVの予防啓発及び被害者の支援につきましては、DVに関する相談の内容が多様化していることから、関係機関と連携しながら相談者の安全確保と自立に向けた支援に努めました。また、昨年度に引き続き、国の交付金を活用し、SNS相談や同行支援を行う民間団体の先進的な活動の支援により、DV被害者等の相談支援や安心して過ごせる環境の整備が図られました。学校等を対象にデートDV予防啓発出前講座を実施し、若年層に向けてのDV防止の啓発に努め、理解促進が図られましたが、実施回数と参加人数は目標値に達していない状況です。 以上から、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断しますが、審議会等における女性の登用率向上やワークライフバランスの実現に向けた取組、性の多様性についての理解促進、女性に対する暴力防止のより一層の啓発活動、DV被害者等の多様化した課題に対応していく必要があることから、総合評価は「B」とします。					

1		7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-5	市民とともに男女共同参画社会の実現をめざす

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-5-1	市民と協働した男女共同参画の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	人権・男女共生課	課長名	松山 浩一郎	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	様々な意思決定の場に男女ともに参画することの必要性についての理解が深まることで女性の活躍が進み、男女が対等に能力を発揮し、活躍できる社会になっています。 また、あらゆる人々が、性別や性的指向、性自認によって差別的取扱をされないのはもちろんのこと、それぞれのライフステージにそった多様な生き方が選択できる社会になっています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	市民意識調査結果等を踏まえ、第3次茨木市男女共同参画計画を策定しました。性の多様性を尊重するまちづくり宣言を行うとともに、パートナーシップ宣誓制度及び補助制度を開始し、当事者支援を行ったほか、啓発冊子の配布や研修の実施により事業所への理解促進を図りました。ローズWAMにおいては、オンラインで同時開催とするなど、新型コロナ感染拡大防止に留意しながら各種事業を実施しました。以上のように概ね順調に推移していますが、審議会等における女性の登用率向上やワークライフバランスの実現に向けた取組、性の多様性についての理解促進を進めていく必要があることから「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R3年度	R4年度	
	市の審議会等における女性委員の割合	%	↗	35.9	34.9	40(R9)		
	市における男性職員の「育児休業」取得者率	%	↗	25.4	22.2	22(R9)		
	「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方に「反対・どちらかといえば反対」という人の割合(意識調査)	%	↗	女性61.4 男性56.0	-	女性75.0 (R9) 男性75.0 (R9)		

1	取組	7-5-2	DVの予防啓発及び被害者の支援					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	人権・男女共生課	課長名	松山 浩一郎	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	人権意識を高め、DVを許さない、被害者やその家族が安心して暮らせる社会になっています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	DVに関する相談の内容が多様化していることから、関係機関と連携しながら相談者の安全確保と自立に向けた支援に努めました。また、昨年度に引き続き、国の交付金を活用し、SNS相談や同行支援を行う民間団体の先進的な活動の支援により、DV被害者等の相談支援や安心して過ごせる環境の整備が図られました。学校等を対象にデートDV予防啓発出前講座を実施し、若年層に向けてのDV防止の啓発に努め、理解促進が図られましたが、実施回数と参加人数は目標値に達していない状況です。以上のように概ね順調に推移していますが、より一層の啓発活動と、引き続き関係機関と連携を強化した相談対応が必要であることから「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R3年度	R4年度	
	DV等において、「長時間の無視」。「大声でどなる」、「細かく監視」を暴力にあたるという人の割合(意識調査)	%	↗	55	-	70(R9)		
	女性に対する暴力防止の啓発や講座の実施回数と参加人数	回/年 人	↗	10回/年 466人	9回/年 230人	10回/年 650人(R9)		
	配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数	件	→	872	850	-		

### 4 学識経験者の意見

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	追手門学院大学経済学部 長町 理恵子 准教授				
2	意見等	<p>・令和4年度は、性の多様性を尊重するまちづくり宣言を行い「パートナーシップ宣誓制度」を開始し、いばらきジェンダー平等プラン(第3次茨木市男女共同参画計画)が策定され、性別にかかわらず、「一人ひとりの「幸せ」がかなうまちいばらき」への方向性が示された。LGBTQ当事者への支援を進展させ、関係機関と連携して多様化するDV等の相談者支援に努め、学校におけるデートDV予防啓発出前講座の開催などDV防止、理解促進を図るための幅広い取り組みがされており、総合評価「B」は妥当であると考えます。</p> <p>・取組7-5-1の参考指標「市における男性職員の「育児休業」取得者率」は、令和4年度も目標値を達成。取組7-5-2の参考指標「配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数」は横ばいだが、「女性に対する暴力防止の啓発や講座の実施回数と参加人数」は、前年度に比べ大幅に減少しており目標値には達していない。今後、講座の参加対象、開催形態などを検討し、基本計画の理念である「ジェンダー平等」を目指すため、さらなる具体的な市民への啓蒙活動、性的マイノリティへの支援、理解促進、認知度向上などを期待する。</p>				



## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤		
2	施策	7-6	地域コミュニティを育み地域自治を支援する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	官民連携した自治会への加入促進などにより、自治会活動の活性化を図るとともに、より多くの市民が利用できる地域活動の拠点の整備(公民館のコミセン化)を進めます。また、様々な地域組織の連携・協働を促進する、地域が一体となった「地域自治組織」の結成を推進し、地域が主体的に行う取組の支援に努めるとともに、市民の「地域」に対する関心を高め、「地域づくりは自らの手で」という意識の醸成に努めます。			
5	評価者等	部 名	補職名・課名		
		評価者(部長級)	市 民 文 化 部	部 長	中 井 誠
		施策主担当課	市 民 文 化 部	市 民 協 働 推 進 課	—
		施策関係課	社 会 教 育 推 進 課		
6	施策内の取組	7-6-1	コミュニティ活動の推進		
		7-6-2	コミュニティ施設の整備		

### 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題
	コミュニティ活動の推進については、各地域の創意工夫した取組をまとめた事例集の第2弾を作成するとともに、地域行事に学生が参画する「まちづくりアイデア検討会議」をモデル実施するなど、地域活動の参加の「きっかけ」を創出し、自治力向上への支援に努めています。また、地域自治組織の結成数については、1校区が結成し、15校区となり、更に2校区で結成に向けた準備会が設立され、地域の多様な団体の連携・協働が進みつつあります。自治会の加入につきまちは、加入依頼書のオンライン申請を可能とし、申請方法の多様化に対応しましたが、自治会の加入率は減少傾向にあるため、引き続き、自治会や地域活動を身近なものと感じ、担い手の確保に繋がる取組を進める必要があります。 コミュニティ施設の整備については、コミュニティセンターの利用者数はコロナ禍前の水準には及ばないものの、徐々に回復傾向にあります。また、Wi-Fi型スマートロックについては、利用者ニーズ及び満足度が高く、今後も各館に導入を拡充し、利用者にとって、身近で利用しやすい環境を進めていきます。公民館からコミュニティセンターへの移行については、昨年度から増加はありませんが、指定管理者制度を導入し、地域の方々で組織する管理運営委員会等に委ねている関係上、地域の実情に応じて慎重に進める必要があるため、引き続き丁寧に対応していきます。 以上のことから、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「A」とします。		課題① ライフスタイルの多様化などに対応し、地域活動の幅広い展開や担い手確保につなげるため、自治会活動にICTの活用を取り入れるための支援を行う必要があります。
			課題② 地域活動の活性化や幅広い担い手確保につなげるため、市内に通う学生が地域活動に参画できる仕組みづくりが必要です。
			課題③ コミュニティセンターについて、地域の団体が継続して管理・運営できる体制づくりを検討する必要があります。
			課題④ 公民館のコミュニティセンター化については、地域の特性や実情等を踏まえながら、丁寧に進める必要があります。
			課題⑤

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-6	地域コミュニティを育み地域自治を支援する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-6-1	コミュニティ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	地域コミュニティ課	課長名 高崎 亮	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	自治会や地域活動が活性化し、様々な地域組織が連携・協働を促す機能を有した「地域自治組織」の結成が進むとともに、地域課題等の解決のために、地域が主体的に行う取組が実践されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	自治会加入依頼書のオンライン申請を可能とし、申請方法の多様化に対応しました。また、各地域の創意工夫した取組をまとめた事例集の第2弾を作成するとともに、地域行事に学生が参画する「まちづくり検討会議」をモデル実施するなど、自治会への加入や地域活動への参加の「きっかけ」の創出など地域の自治力向上への支援に努めています。地域自治組織の結成数については、1校区が結成し15校区となり、2校区で結成に向けた準備会が設立しています。一方で、自治会加入率は減少傾向にあるため、引き続き、自治会や地域活動を身近なものと感じ、担い手の確保につながる取組に努める必要がありますが、現時点では施策の方向性に沿って順調に推移しているため「a」評価といたします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	自治会加入依頼書提出件数(延べ)	件	↗	55	79	70 (R6)	
	地域自治組織の結成数	団体	↗	14	15	16 (R6)	

1	取組	7-6-2	コミュニティ施設の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	地域コミュニティ課	課長名 高崎 亮	
3	関係課	社会教育振興課					
4	目標 (後期基本計画より)	地域活動の拠点として公民館のコミュニティセンター化が進み、地域の特性を踏まえた管理運営が行われ、より多くの市民が利用しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	コミュニティセンターの利用者数は、新型コロナウイルスに伴う利用控え・利用人数の制限等により、コロナ禍前の水準には及ばないものの、徐々に回復傾向にあります。また、公民館からコミュニティセンターへの移行にあたっては、コミュニティセンターは指定管理者制度を導入し、地域の方々で組織する管理運営委員会等に委ねている関係上、地域の実情に応じて丁寧かつ慎重に進める必要があることから、昨年度から増えておらず、現時点においては「b」評価としています。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	コミュニティセンター数	館	↗	18	18	20 (R6)	
	コミュニティセンター利用者数(延べ)	人	↗	358,370	472,249	654,000 (R6)	

### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果が順調に出ており、指標をみても昨年度より伸びている。よって、総合指標「A」は妥当と考える。</li> <li>・「地域自治組織」について量的には増加しているが、今後は本来の「地域自治」を担うための質的向上が望まれる。</li> <li>・そのためにも、時代の変化に対応した地域自治活動のあり方を学ぶ機会として生涯学習センターやコミュニティセンターでの学びの機会を増やしてもらいたい。こうしたコミュニティセンターの活用も質的向上が望まれる。</li> <li>・自治会の加入率が低下しているのは、住民が地域活動に関心になつていないというよりも、住民ニーズに合わせた活動への転換が進んでいないからだと思う。</li> </ul>				

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-7	多様な主体による協働のまちづくりを推進する
3	対応するSDGs	<div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">17</span> <span style="font-size: 8px; margin-left: 5px;">パートナーシップで 目標を達成しよう</span> </div>	
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	今後も引き続き、多くの市民が市民活動に参加できるようNPO等の活動情報の集積・発信はもとより、様々な媒体を通じて積極的に行政情報を提供するとともに、多様な主体が連携・協力できる環境整備に努めます。また、まちづくり、福祉、教育、子育てなどの様々な分野において市民、事業者、NPO、大学、行政などの多様な主体が互いを補完しながら、最善の事業手法でまちづくりに取り組みます。	
5	評価者等	部 名	補職名・課名
		評価者(部長級)	部 長
		施策主担当課	市民協働推進課
		施策関係課	法務コンプライアンス課、政策企画課、まち魅力発信課、市民生活相談課
6	施策内の取組	7-7-1	協働とパートナーシップによるまちづくりの推進
		7-7-2	行政の透明性の向上
		7-7-3	協働のまちづくりを推進するための広報広聴活動
		7-7-4	大学との連携によるまちづくりの推進

### 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題
	協働とパートナーシップによるまちづくりの推進については、おにクル移転に向けて、分野別交流会やイベント等の実施により、市民活動センターの登録団体数は順調に増加しています。また、チャレンジいばらき補助金についても、チラシやSNSを活用するなど周知方法を工夫することで、申請件数が増加しました。DIY工房は、活動人口の増加やまちづくりの担い手の創出につながる場として活用されたほか、企業連携では新たに2社と包括連携協定を締結したことに加え、公民連携事業を実施し、地域の課題解決や活性化に取り組みました。行政の透明性の向上に向けて、情報公開制度において、市政について市民に対する説明責任を果たすとともに、市民の理解と参加の下に公正で開かれた市政を推進するため、個人情報等の非公開情報に注意を払いつつ、適正な事務の実施に取り組んでいます。また、情報公開制度より簡便な手続による情報提供制度についても、市民等に広く活用されています。広報活動については、広報誌・市ホームページ・SNSなどの各種広報媒体の特性を活かして効果的・相乗的に情報発信を行い、市SNSの登録者は着実に増加しており、さらに、協働のまちづくりを推進するための広聴活動については、電子メールや市政へのアイデアボックス等で多くのご意見を聞き、迅速な対応に努めたほか、市長と市民の対話の場として、中学生との「次なる茨木ミーティング」、高校生・大学生・社会人との「タウンミーティング」を実施し、日頃、意見を聞く機会の少ない世代の声を市政運営に活かしました。大学との連携によるまちづくりの推進に向けて、「いばらき・学生等連携事業補助金」について、学生にとってより活用しやすい制度とするため、補助の回数制限を撤廃するなど、制度改正を実施しました。しかし、申請数は昨年度に比べて減少しており、学生への周知方法等についてはなお検討が必要です。市と大学との共同研究の推進を図る「大学連携共同研究事業」について、周知の強化を図ったところ、提案数が大幅に増加しました。よって、施策に沿って順調に推移しているため、「A」評価とします。		課題① おにクル開館を控え多様な主体との繋がりや市民活動センターのコーディネート機能を強化する必要があります。本市の政策課題や連携ニーズに結び付ける仕組みの創設等により企業連携をさらに推進する必要があります。
			課題② 一層の行政の透明性の向上を図る必要があります。
			課題③ 時代の変化を踏まえ、紙媒体とWEB媒体の役割整理、連携強化を含めた「今求められる広報誌」のあり方を検討する必要があります。様々な世代や立場の方々の声を、引続き幅広く聞く必要があります。
			課題④ 大学の知的資源を活かした共同研究のさらなる推進に向け、実施基準やマッチングの進め方等について、大学の意見を聴きながら検討を進める必要があります。
			課題⑤ おにクルの開館に向けて、市内大学生の活動がより活発となるよう引き続き周知や支援に取り組む必要があります。

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-7	多様な主体による協働のまちづくりを推進する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	7-7-1	協働とパートナーシップによるまちづくりの推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	共創推進課	課長名	向田 明弘
3	関係課	政策企画課					
4	目標 (後期基本計画より)	まちづくり、福祉、教育、子育てなどの様々な分野において、市民、事業者、NPO、大学、行政などの多様な主体が互いを補完しながら、最善の事業手法でまちづくりのための仕組みづくりに取り組んでいます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	<p>おにクル移転に向けて、分野別交流会やプレイベント等の実施により、市民活動センターの登録団体数は順調に増加しています。また、チャレンジいばらき補助金についても、チラシやSNSを活用するなど周知方法を工夫し、申請件数が増加しました。DIY工房は、活動人口の増加やまちづくりの担い手の創出につながる場として活用されたほか、企業連携では新たに2社と包括連携協定を締結したことに加え、公民連携事業により地域の課題解決や活性化に取り組めました。</p> <p>以上のように、施策の方向性に沿って順調に推移しているため、「a」評価といたします。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	市民活動センター登録団体数	団体	↗	219	235	215(R5)	
	チャレンジいばらき補助金の申請件数	件	↗	35	57	38(R5)	
	DIY工房を通じて社会・地域活動に参加したいと思った割合	%	↗	57	50	80(通年)	

1	取組	7-7-2	行政の透明性の向上				
2	主担当課	部名	総務部	課名	法務コンプライアンス課	課長名	樋之津 奈穂
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市政に関する多くの情報が公開されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	<p>情報公開制度において、市政について市民に対する説明責任を果たすとともに、市民の理解と参加の下に公正で開かれた市政を推進するため、個人情報等の非公開情報に注意を払いつつ、適正な事務の実施に取り組んでいます。また、情報公開制度より簡便な手続による情報提供制度についても、市民等に広く活用されています。</p> <p>以上のように施策の方向性に沿って順調に推移しているため、「a」評価とします。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	情報提供制度の活用度	%	→	93	94	—	

1	まちの将来像	7	まちづくりを進めるための基盤
2	施策	7-7	多様な主体による協働のまちづくりを推進する

1	取組	7-7-3	協働のまちづくりを推進するための広報広聴活動				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	まち魅力発信課	課長名 大野 雅史	
3	関係課	市民生活相談課					
4	目標 (後期基本計画より)	市政に対する市民からの提言や意見が増えています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	広報活動については、広報誌・市ホームページ・SNSなどの各種広報媒体の特性を活かして効果的・相乗的に情報発信を行い、市SNSの登録者は着実に増加しています。広聴活動については、電子メールや市政へのアイデアボックス等で多くのご意見を聞き、迅速な対応に努めたほか、市長と市民の対話の場として、中学生との「次なる茨木ミーティング」、高校生・大学生・社会人との「タウンミーティング」を実施し、日頃、意見を聞く機会の少ない世代の声を市政運営に活かしました。 以上より、本取組は順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	市公式SNSの総登録者数(3-4-2の再掲)	件	↗	18,077	20,923	20,500(R4)	
	広聴活動で寄せられた意見の件数	件	→	5,331	4,303	3,700(R4)	

1	取組	7-7-4	大学との連携によるまちづくりの推進				
2	主担当課	部名	企画財政部	課名	政策企画課	課長名 岩崎 友昭	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	地域と大学・学生等の連携が進んでいます。 市と大学・学生等の連携による取組が進んでいます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	「いばらき・学生等連携事業補助金」について、学生にとってより活用しやすい制度とするため、補助の回数制限を撤廃するなど、制度改正を実施しました。しかし、申請数は昨年度に比べて減少しており、学生への周知方法等についてはなお検討が必要です。 市と大学との共同研究の推進を図る「大学連携共同研究事業」について、周知の強化を図ったところ、提案数が大幅に増加しました。 以上のことから概ね順調に進行しているものの、事業実施手法や周知方法をさらに検討する必要があることから「b」評価としています。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	学生と地域の連携に係る提案公募型補助事業の申請数	件	↗	15	10	15(各年度)	
	いばらき×大学連携共同研究事業の提案数	件	↗	11	16	5(各年度)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果が順調に出ており、指標をみても昨年度より伸びている。よって、総合指標「A」は妥当と考える。</li> <li>・IBALAB広場やDIY工場の活用等で、新たな担い手との協働も進んでいると思う。</li> <li>・市民活動センターの「おにクル」移転を契機に、市役所とセンターの連携のもとより協働が進んでいくことを期待する。</li> <li>・大学生向けの事業は、コロナ禍によって活動に向けての学生のモチベーションが下がっていることも影響しているのではないだろうか。</li> <li>・「広聴活動で寄せられた意見の件数」が昨年度より減少しているが、市民の声を聴き市政へ反映させるのは広聴活動だけではないはず。多くの部署で市民意見の聴取を行っていれば、広聴活動に寄せられる意見は減少するので、より総合的な判断、評価が望まれる。</li> </ul>				